

北斎 かわらばん

第三十号



富嶽三十六景

礪川雪の旦

「富嶽三十六景 礪川雪の旦」(大判錦絵) 天保2(1831)年頃

一面雪に覆われた朝の景色を描いた作品です。描かれた場所は現在の小石川(こいしかわ)で、小石川の名称は、後樂園(こうらくえん)の付近で江戸川や周辺の高台から流れ込んだ小川が合流し、砂や小石が多かったことに由来するといわれています。タイトルには礪(れき)という字が使われていますが、この字は小さい石を意味しています。『江戸名所図会』という江戸時代に出版された本によると、小石川は水道橋から白山にかけてのエリアを指しており、現在の文京区のかなり広い範囲を占めていました。

例えば、長命寺(墨田区向島五丁目)には松尾芭蕉の句碑「いざさらば雪見(ゆきみ)に転ぶところまで」があります。江戸の人々が雪見を楽しんでいた様子が感じられる句です。その楽しみ方も、炬燵(こたつ)から外の雪を眺めたり、雪見酒を楽しんだり、船に乗り、河岸の雪景色を楽しんだり、と様々だったようです。本図では、茶屋で雪景色を眺めながら酒と肴(さかな)を楽しむといったところでしょうか。茶屋の中にいるひとりの女性が空を指さしています。その先には鳥が三羽飛んでおり、さらにその先には雄大な富士山が描かれています。鳥を配することで、視線が手前の茶屋から奥に広がる空と富士山へ自然に向かう効果を上げています。

【発行】
墨田区民活動推進部
文化振興課
北斎美術館開設担当
(墨田区役所1階)
☎03-5608-6115
【編集協力】
(公財)墨田区文化振興財団
北斎事業課



引越しはなんと九十三回!

なぜこんなに引越したの?

火事除けのお守りを描く

北斎が度々、引越しをしたことはよく知られていますが、その回数は大変多く、九十三回を数えたといわれています。九十年の生涯において、一年に一回以上引越しをした計算になります。美術史家・飯島虚心(二八四一〜一九〇一)の記した『葛飾北斎伝』の中にも、一日に三度引越したこともあると記されていることから、かなりの引越し魔だったようです。また、北斎と仕事をした戯作者・曲亭馬琴も、「転居と改名において、この男ほど頻繁な者はいない」と呆れていたほどだったそうです。

なぜ北斎はこれほどまでに引越しを重ねたのでしょうか。ひとつの答えを紹介しましょう。『葛飾北斎伝』の中に、北斎が戯作者・四方梅彦(一八二二〜一八九六)に語ったとされる言葉が掲載されています。それは、江戸中期の俳人・寺町百庵(一六九五〜一七八二)が一〇〇回引越したので、それに倣うと語っていた、ということとです。北斎にとつて、引越しは目的があつたことだと言うのですが、はたしてどうでしょうか。

北斎の引越しは、江戸の人々にもよく知られていました。それは回数だけではなく、火事に遭遇しなかったという理由でした。「火事と喧嘩は江戸の華」と呼ばれたほど、江戸は火事が多かったのですが、『葛飾北斎伝』によると、「北斎が七十五歳の時に引越しが五十六回となったが、今まで一度も火事に遭った事がなかったため、鎮火のお守りを書いて与えていた」というほどだったといえます。北斎が初めて火災に巻き込まれることになるのは、それから五年後、達磨横町(現在の墨田区東駒形一丁目辺り)でのことでした。

- ⑩ 浅草藪の内明王院境内 (天保元年 71歳)
- ⑪ 深川万年橋辺 (天保7年 77歳)
- ⑫ 本所石原片町 (天保10年 80歳)
- ⑬ 本所達磨横町 (天保10年 80歳)
- ⑭ 本所亀沢町 (天保13年 83歳)
- ⑮ 本所亀沢町禮馬場 (天保末年頃)
- ⑯ 向島小梅村 (弘化元年 85歳)
- ⑰ 浅草寺前 (弘化元年 85歳)
- ⑱ 本所荒井町 (弘化2年 86歳)
- ⑲ 牛嶋(場所不定) (弘化2年 86歳)
- ⑳ 番場町 (弘化2年 86歳)
- ㉑ 両国辺 (弘化3年 87歳)
- ㉒ 浅草田町一丁目 (弘化4年頃 88歳)
- ㉓ 浅草馬道 (弘化4年頃 88歳)
- ㉔ 浅草聖天町遍照院境内 (嘉永元年 89歳)



北斎が住んだ主な場所

※地図上の丸数字はおおよその位置を示したものです。

- ① 本所割下水 (宝暦10年 0歳)
- ② 本所松坂町一丁目 (?・幼少期)
- ③ 本所横網町 (?・幼少期)
- ④ 三田台町 (天明2年 23歳)
- ⑤ 日本橋小伝馬町 (天明7年頃 28歳)
- ⑥ 浅草大六天神脇町 (寛政7年頃 36歳)
- ⑦ 本所林町三丁目 (寛政10年頃 39歳)
- ⑧ 山の手(伝通院前か) (寛政12年頃 41歳)
- ⑨ 山下辺(上野か) (享和元年頃 42歳)
- ⑩ 曲亭馬琴宅(飯田町中坂下)に寄宿 (文化3年 47歳)
- ⑪ 本所亀沢町 (文化5年 49歳)
- ⑫ 本所両国橋辺 (文化6年 50歳)
- ⑬ 蛇山(本所原庭町) (文化12年 56歳)
- ⑭ 本所緑町 (文政3年 61歳)
- ⑮ 堤等琳宅(根岸御行の松)に寄宿 (文化5年 63歳)



今回も北斎の『えほんはやびき画本早引』

からのクイズです。一回目

は動作に関係する絵、二回

目は気象に関係する絵でし

たが、今回は季節に合わせて

て、お正月に関係する絵を

集めてみました。

ひとつひとつは一、ニセ

ンチほどの小さな絵ですが、

生き生きと描かれているの

で、活気が感じられます。

絵のタイトルをあててみ

てね。答えはページの下に

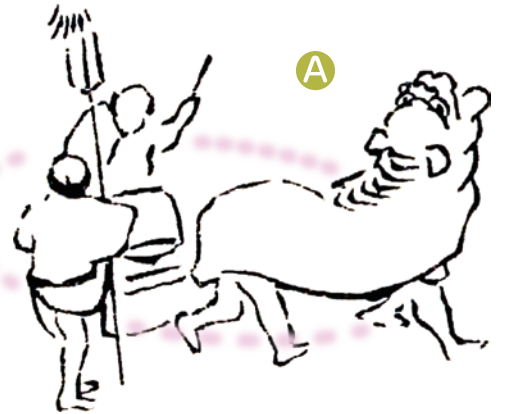
あるよ。

絵のタイトルを当てよう

- ① 松鋸(まつかざり) ④ 御酒(みき)
- ② 絵馬売(えまうり) ⑤ 餅(もち)
- ③ 神楽(かぐら)



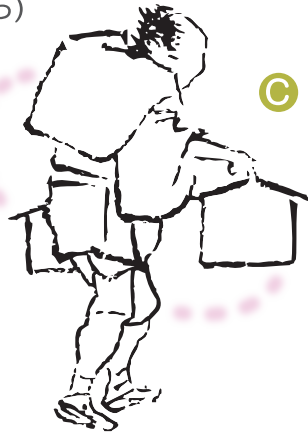
E



A



B



C



D

すみだで生まれ育った北斎は、すみだの名所を多く描きました。三囲神社(墨田区向島二丁目)もその一つです。当時は三囲稻荷などの名で親しまれており、「新板浮絵三囲牛御前両社之図」風流隅田川八景 ミメぐりのせいらん」など北斎の作品にたびたび登場しています。さらに、三囲神社と北斎のエピソードも伝わっています。寛政十一(一七九九)年の春、三囲神社では開帳が行われました。

『寛政紀聞』

という随筆集には、「この開帳には六〇〇もの提灯が奉納されたが、北斎の絵が描か

すみだと北斎

北斎と三囲神社

れた十二個の提灯が特に素晴らしかった。また、北斎が依頼されて描いた奉納の額は、美女が雷に驚いて蚊帳を吊る図柄で、これも見事だった」と記されています。北斎がこの地で暮らし、その絵を人々が愛していたことが伝わるエピソードです。



「新板浮絵三囲牛御前両社之図」(文化〈1804-18〉中期頃)

北斎関連 展覧会のご案内

生誕290年記念 勝川春章 ―北斎誕生の系譜―

太田記念
美術館



勝川春章「五代目市川團十郎の坂田金時と三代目瀬川菊之丞の女暫」(前期展示)

勝川春章(一七二六?〜一七九二)は、人気の歌舞伎役者や力士たちを、似顔絵を用いた写実的な作風で描き、一世を風靡した浮世絵師です。本展は、勝川春章の版画を中心とした名品を展覧するとともに、同時代を生きた絵師たちや勝川派の門下、北斎や写楽といった春章が影響を与えた絵師たちの作品を幅広く紹介し、春章の画業と生涯に迫ります。

- 会 期
前期：平成28年2月2日(火)〜2月28日(日)
後期：平成28年3月4日(金)〜3月27日(日)
- 開館時間
午前10時30分〜午後5時30分(入館は午後5時まで)
- 問い合わせ
△03・5777・8600(ハローダイヤル)

浮世絵 関連 展覧会のご案内

隅田川をめぐる文化と産業 〜浮世絵と写真でみる江戸・東京〜

たばこと
塩の博物館

本展では、江戸時代を通じて描かれた浮世絵や明治以降に記録された写真を中心に、隅田川をめぐる暮らしと文化について展示します。また、あまり知られていない「たばこ」や「塩」と隅田川の関わりについての紹介も行います。

- 会 期
平成28年1月5日(火)〜3月21日(月・祝)
- 開館時間
午前10時〜午後6時
(入館は午後5時30分まで)
- 会 場
たばこと塩の博物館 二階
特別展示室
- 問い合わせ
△03・3622・8801



「江戸八景 隅田川の落雁」 溪斎英泉画 天保(1830-1844)頃

すみだ北斎美術館 建設現場レポート

平成28年度の開館に向け、順調に建設工事が進んでいます。
建設状況は、下記ホームページにて随時掲載しています。
是非、ご覧ください。

■ 建設地 墨田区亀沢二丁目7番

(緑町公園内)

■ 竣工 平成28年4月末(予定)

平成27年11月現在、躯体が出来上がりました。

今後は建物竣工に向け、内装・外装の仕上工事を行っていきます。



平成27年4月



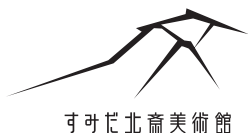
平成27年7月



平成27年11月

下記ホームページでは、すみだ北斎美術館のダイジェスト映像や、無料でダウンロードできるスクリーンセーバーなどもご用意しております。是非、ご覧ください。

<http://hokusai-museum.jp>



すみだ北斎美術館